

神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲

出雲市環境レポート2011

平成22年度(2010)のまとめ

大好き★出雲
IZUMO



出雲市

<はじめに>

本市では、平成 18 年度(2006)に、市民・事業者・行政が「神話から未来へつなぐ さわやかな環境のまち・出雲」をつくっていくために必要な取り組みを示した「出雲市環境基本計画」を策定しました。

この計画では、本市のすばらしい環境を次世代に伝えていくため、環境の保全や地球温暖化に向けた市の取り組み、市民・事業所の行動や目標などを定めています。

「出雲市環境レポート」では、出雲市環境基本計画の進捗状況を点検・評価し、確実に進めるよう見直すとともに、より多くの方に本市の環境に関する取り組みをご覧いただき、取り組みにつなげていただくこと等を目的に、毎年発行することとしています。

<もくじ>

出雲市環境基本計画の基本目標

「出雲市地域省エネルギービジョン」の方針

基本目標① 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

基本目標② 人と自然がふれあい ともに生きるまち

基本目標③ 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

基本目標④ 「もったいない」の心で築く 循環型のまち

基本目標⑤ 地球を考え 地域から実践するまち

基本目標⑥ とともに学び行動する 環境意識が高いまち

<参考>

- ・平成 22 年度 省エネ・3R 推進事業
- ・レジ袋無料配布中止の結果

平成 22 (2010) 年度は、旧斐川町との合併前でしたので、このレポートに掲載した数値等には、斐川地域における取り組みは含まれていません。

平成 24 (2012) 年度には環境基本計画の見直しを行う予定であり、その中で、旧斐川町との合併後の状況を踏まえた新たな目標設定を実施することとしています。

斐川地域の取り組みを含めた数値等の当レポートへの掲載については、この新たな目標設定ができた後に実施する予定です。

＜出雲市環境基本計画の6つの基本目標＞

【生活環境の目標】 澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

大気環境の保全	①車などの排気ガスの削減 ②大気汚染の防止
水環境の保全	①水域への排水対策 ②泳げる川と湖の創造 ③海域の保全
健康に暮らせる環境の保全	①騒音・振動・悪臭の防止 ②アスベスト問題への対応 ③住みよい暮らしづくり

【自然環境の目標】 人と自然がふれあい ともに生きるまち

野生動植物との共生	①トキと人などが共生可能な環境づくり ②生態系を守る取り組み
豊かな自然とのふれあい	①自然環境の保全 ②自然とのふれあいの機会の創出
森林と農地の保全と再生	①森林を守り育てる取り組み ②農地の適正管理と活用 ③里山の保全と有効な活用

【快適環境の目標】 悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

景観保全と緑地の確保	①自然・歴史的景観の保全と活用 ②花と緑の確保 ③公園の整備と利用促進
環境美化の推進	①ポイ捨て・不法投棄への取り組み ②清掃活動の充実

【循環型社会構築の目標】 「もったいない」の心で築く 循環型のまち

廃棄物対策と資源循環の推進	①3R（発生抑制・再利用・再生利用）の推進 ②廃棄物の適正処理の推進 ③もったいない運動の推進
環境と経済の好循環の推進	①新エネルギーの普及と利用促進 ②環境に優しい製品の普及と利用促進

【地球環境の目標】 地球を考え 地域から実践するまち

地球温暖化防止の取り組み	①温室効果ガス抑制への取り組み ②危機意識を高めるための取り組み
地球規模での環境問題への取り組み	①オゾン層を守る取り組み ②他国からの漂着ごみ・黄砂への対応

【環境学習や環境保全活動の目標】ともに学び行動する 環境意識が高いまち

環境学習・環境保全活動の推進	①学校や地域での環境学習機会の充実 ②環境保全活動の推進 ③ISO14001 普及への取り組み
環境情報の提供と共有	①環境情報提供の充実 ②環境啓発イベントの推進

＜出雲市地域省エネルギービジョンの3つの方針＞

【基本方針1】地球を考え・学ぶ（意識の向上）

環境学習推進プラン	①(仮称)いずも環境講座の開催 ②エコライフ・スローライフ体験学習等の推進 ③学校における省エネ学習の推進 ④「こどもエコクラブ」の活動促進
環境啓発イベント推進プラン	①イベント等での啓発 ②環境にやさしいイベント運営 ③市民・事業者の環境啓発支援

【基本方針2】省エネルギーを実践する（省エネ実践）

情報発信プラン	①具体的な省エネメニューの発信 ②市民・事業者・市の取り組み効果の公表
環境マネジメントシステム（EMS）普及促進プラン	①家庭版環境 ISO の普及 ②事業所における「ISO14001」や「エコアクション 21」等の普及 ③「学校版エコライフチャレンジしまね」の普及 ④市の環境マネジメントシステム等の運用
省エネ行動強化プラン	①緑のカーテンの普及 ②マイカー利用の自粛 ③ごみ減量化の推進 ④市民運動の推進
省エネメリット還元プラン	①省エネポイント制度の創設
機器等の導入促進プラン	①公共施設への積極的導入 ②事業所におけるエネルギー診断の推進 ③家庭・事業所における機器等の導入促進 ④省エネ機器・新エネ機器の導入支援の検討

【基本方針3】取り組みを継続・拡大する（取り組みの継続・拡大）

推進組織の設立プラン	①(仮称)出雲市環境保全推進協議会の設立
------------	----------------------


目標数値	エネルギー起源 CO2 排出量を平成 18 年度（2006）比 約 20%削減 平成 2 年度（1990）と同じ水準に抑制（産業部門を除く）
------	---

基本目標 1 生活環境の目標

澄んだ空気ときれいな水に潤い 健康に暮らせるまち

出雲市環境基本計画では、大気汚染測定値(浮遊粒子状物質:SPM)や類型指定河川水質(BOD)、ダイオキシン類の測定値などを「現状維持」、湖沼・海域の水質(COD)、騒音・振動の測定値などを「環境基準値内」等と目標を定めています。

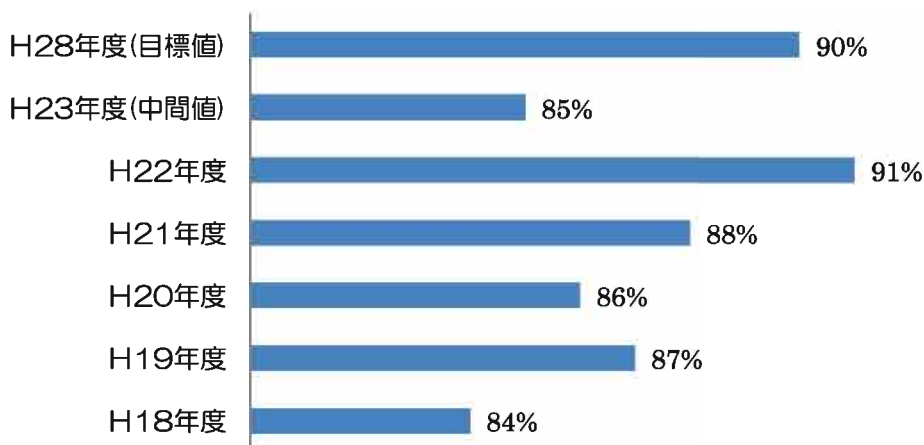
<大気環境の保全>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
大気汚染測定値 SPM (mg/m ³)	0.022 (H16年度)	0.019	0.019	環境基準値内 を維持	環境基準値内 を維持
市の廃食用油回収によるバイオディーゼル燃料製造量(L)	28,230	18,800	14,600	60,000	80,000
3km未滿の市職員の ノーマイカー通勤率 ※〔 〕はCO ₂ の年間排出量 (kg-CO ₂)	57% 〔74,400〕 (H18年度)	57% 〔47,810〕	50% 〔46,154〕	80% 〔34,800〕	80% 〔34,800〕
空気のきれいさに対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	84% (H18年度)	88%	91% 	85%	90%





「空気のきれいさに対する満足度」アンケートの経年の変化は、図1のとおり高い満足度の回答を得ていることから、大気の状態(きれいさ)は、良好に保たれていると考えられます。

「剪定枝等のチップ化」の量(P9参照)が増加していることから、違法な野外焼却(野焼き)が減少してきていると考えられ、このことも要因の一つではないかと思われます。

図1 空気のきれいさに対する満足度

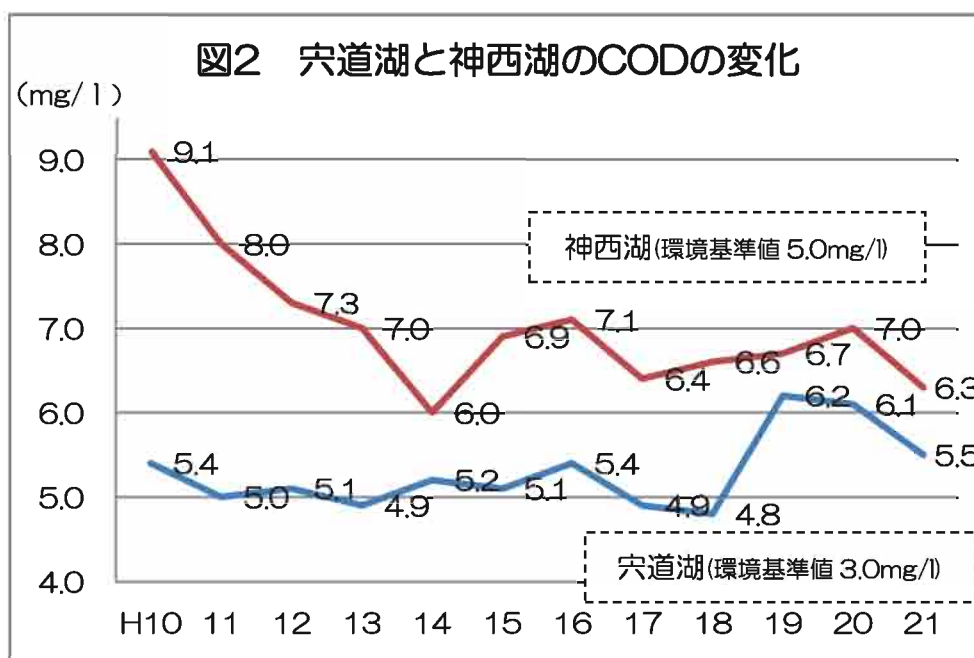


<水環境の保全>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
類型指定河川水質(BOD) (環境基準値) 1mg/l(2地点)、2mg/l(6地点)	達成	達成	達成 	環境基準値内 を維持	環境基準値内 を維持
類型未指定河川水質 BOD5mg/l以下(市独自目標)	未達成	達成	達成 	達成	達成
湖沼水質(宍道湖・神西湖) (COD)(環境基準値 宍道湖 3mg/l・神西湖 5mg/l)	未達成	未達成	未達成	環境基準値内	環境基準値内
海域水質 おわし海水浴場 (COD、環境基準値 2.0mg/l)	未達成	達成	達成 	環境基準値内	環境基準値内
水質調査箇所数(箇所)	43	43	43 	43以上	43以上
廃食用油回収量(L)	28,230	37,775	38,368	60,000	80,000
汚水処理人口普及率	61.4%	71.3%	74.0%	77%	87%
水のきれいさに対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	45% (H18年度)	55%	57%	50%	70%

水環境に関する測定値は、概ね目標値を達成しており、アンケートでも満足度が上がってきているように、緩やかにですが市内の水環境の改善が進んでいるものと考えられます。

宍道湖・神西湖のCODの数値は図2のとおりで、下水道などの整備が着実に進んでいるにも関わらず、ほぼ横ばいの状況です。環境基準値以下になるよう、今後も水環境に関する啓発に努めていく必要があります。




基本目標 2 自然環境の目標 人と自然がふれあい ともに生きるまち

出雲市環境基本計画では、出雲地域固有の動植物を適切に保全し、人との共生を図るとともに、自然に親しむ環境づくりや、国土保全など環境面からも大きな機能を有している森林・農地の保全・再生を目標としています。

＜野生動植物との共生＞

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
野生動植物の生息に対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	55% (H18年度)	60%	61%	60%	70%

＜豊かな自然とのふれあい＞

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
自然体験事業参加者数(人)	600	2,186	1,994 	1,000	1,500
自然体験市有施設の利用者数(人)	110,000	106,501	108,133	113,000	116,000

※自然体験市有施設（うさぎ森林公園、目田森林公園、見晴らしの丘公園、浜遊自然館、風の子楽習館）

＜森林と農地の保全と再生＞

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
針葉樹・広葉樹の植林面積 (ha/年)	6.5	10.93	0.77	6.5	6.5
グリーンツーリズム (田舎体験)の受入れ団体数	0	5	5	5	10
アグリビジネススクール卒業 者数(累計：人)	43	179	219	268	493
学校給食における地場産品の 使用割合(地産地消)	23%	27%	28%	30%	30%
野山や田畑の豊富さに対する 満足度 ※アンケートの無回答を除く	78%	79%	77%	80%	85%

基本目標 3 快適環境の目標


悠久の歴史が息づく 美観と快適空間のまち

本市には、古くからの町なみや築地松など特徴ある景観が多く見られ、市内の様々な緑は潤いと安らぎのある快適な空間をつくりだしています。

本年度は、ほとんどの評価項目において数値的に大きな変動はなくほぼ横ばいとなっています。

今後は美観や快適空間に対する関心を盛り上げ、市民と市が一緒になって快適な環境を作り出していく必要があります。

<景観保全と緑地の確保>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
生垣奨励補助金件数	24	17	H21年度で 終了	35	40
都市公園整備率 (1人あたり：㎡)	11.7	12.65	13.37	13.5	14.0
街路樹の植栽本数(本) (累計：中・高木)	2,330	2,504	2,524	2,880	3,430
出雲「花と緑」総合フェスティ バル入場者数(人)	20,000	13,000	H21年度で 終了	20,000	20,000
公園や広場に対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	47% (H18年度)	48%	55% 	50%	55%
都市の緑化に対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	51% (H18年度)	51%	51%	55%	60%
景観に対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	42% (H18年度)	45%	50%	50%	60%

<環境美化の推進>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
ポイ捨て一掃大作戦参加者数 (人)	7,000	8,672	9,343	10,000	15,000
ポイ捨てごみの回収量(kg) (定点観測)	8.5 (H19年度)	35.7	19.9	5.1 (40%減)	1.7 (80%減)
美化サポートクラブ 登録団体数	5	21	27	20	40
環境美化に対する満足度 ※アンケートの無回答を除く	28% (H18年度)	29%	39%	50%	80%

出雲市環境基本計画において数値目標設定の対象となっていた「生垣奨励補助金」など2事業が、平成21年度をもって終了となりました。

平成24年度に予定している同基本計画の見直し作業において、すでに事業が終了した項目の取り扱いも含め、目標設定項目の再検討を行う予定です。

出雲市美化サポートクラブ

ごみのポイ捨てや犬のフンの放置などのない街づくりを推進するために、美化活動の実施などをボランティアで行う団体等を市長が「出雲市美化サポートクラブ」として認定しています。

認定団体等には、市が傷害保険の加入手続きや清掃道具の貸与などのサポートを行っています。

7ページの表にあるように平成22年度末で27団体（市民団体13、企業14）が認定を受け、それぞれの活動地域で道路や公園、河川その他公共施設などの美化活動が実施されています。

アンケートにおける「環境美化に対する満足度」は、未だ目標値の半分以下です。

環境美化に関する意識と満足度向上のためにも、美化サポートクラブのような団体の活動を広げることが重要と考えますので、今後もこの制度をPRしていきます。

一方で、後を絶たないごみのポイ捨てや犬のフンの放置などの根絶に向け、市民への意識啓発に努めていきます。



基本目標 4 循環型社会構築の目標

「もったいない」の心で築く循環型のまち

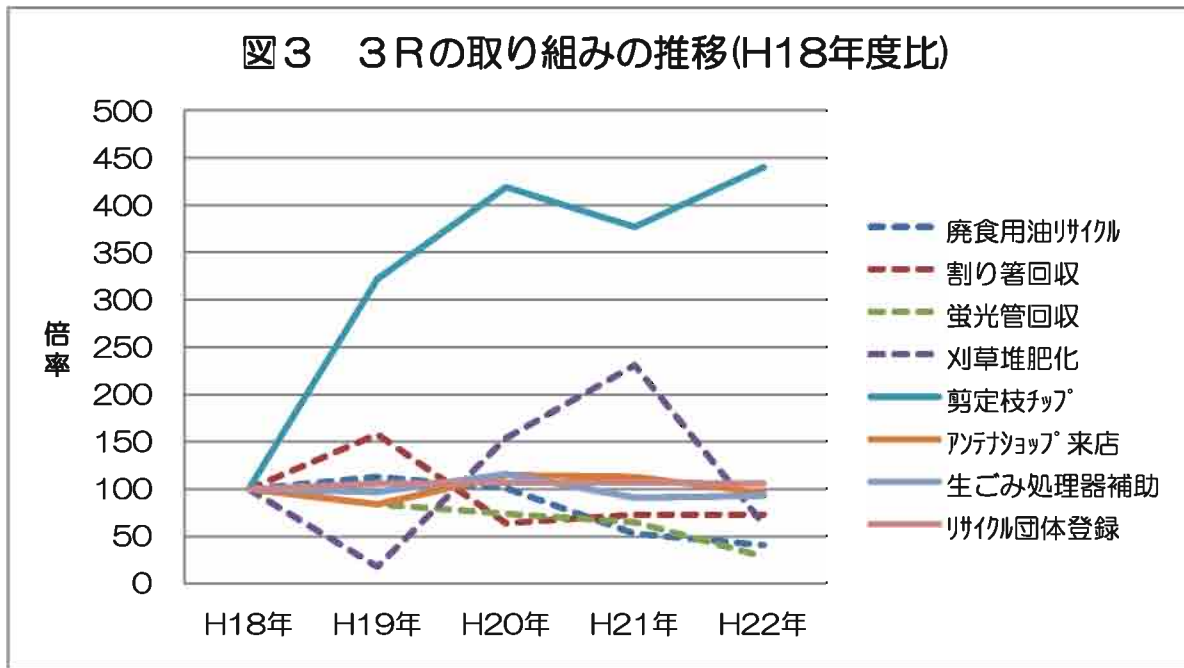
平成22年度、本市の廃棄物排出量（ごみ排出量）は54,369tで前年度比▲1.5%（基準年度比▲4.4%）と抑制はできているものの、わずかな減少幅となっています。

なお、「3R」の取り組みとしては、下表に示す結果となりました。

<3Rの取組の現状>

項目		H18	H19	H20	H21	H22
廃食用油リサイクル	実績値(L)	35,645	40,405	36,043	18,800	14,600
使用済み割りばしリサイクル	実績値(t)	4.66	7.34	2.98	3.4	3.4
使用済み蛍光管リサイクル	実績値(t)	5.59	4.72	4.15	3.64	1.60
刈草堆肥化（試験的实施）	堆肥化量(m ³)	65	12	100	150	41
剪定枝等のチップ化	処理量(t)	258	830	1,081	973	1,135
環境アンテナショップ	来店者数(人)	7,273	6,100	8,345	8,233	7,000
生ごみ処理器購入経費補助	個数	286	277	333	261	267
リサイクル団体回収補助	登録数	95	101	102	102	101

図3 3Rの取り組みの推移(H18年度比)



3Rの取り組みの推移は、平成18年度を「100」とすると図3のとおりです。

「廃食用油リサイクル」については、これまでBDF（バイオディーゼル燃料）としてリサイクルし、市の公用車等で利用していましたが、現在主流になった新型ディーゼルエンジンには不向きであり、車輛の更新が進むとともに使用量が減ってきています。

廃食用油回収量は増加していますので、今後新たなリサイクル方法について、検討していく必要があります。

<廃棄物対策と資源循環の推進>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
廃棄物排出量(t) 〔削減率〕	56,859	55,210 〔2.9%〕	54,369 〔4.4%〕	51,000 〔10%〕	45,000 〔20%〕
廃棄物再資源化量(t) 〔リサイクル率〕	10,790 〔18.86%〕	10,726 〔19.4%〕	10,765 〔19.8%〕	15,300 〔30%〕	18,000 〔40%〕
環境アンテナショップ設置数	1	1	1	2	3
リサイクル団体回収補助 登録団体数	85	102	101	120	160

<環境と経済の好循環の推進>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
風力発電施設の発電量 (kWh)	2,750,000	2,102,546	1,445,469	172,750,000 〔市の95%の世帯〕	172,750,000 〔市の95%の世帯〕
新エネルギー導入 市有施設数	3	4	5	10	30

平成 23 年 3 月 11 日には、東日本に甚大な被害をもたらした「東日本大震災」が発生しました。

この大震災（津波）の影響により福島第一原子力発電所において、周辺環境へ大量の放射性物質が放出される事故が発生しました。この事故の影響で、平成 24 年 3 月 9 日現在全国 54 基の原子力発電施設のうち、北海道電力泊 3 号機、東京電力柏崎刈羽 6 号機を除く 52 基が運転を停止しています。

このままで行くと遅くとも平成 24 年 5 月中には全ての原子力発電所が停止することから、電力需要状況に注意を払う必要があります。

幸いにも、中国電力管内では平成 24 年 3 月までの時点において電力供給不足は発生していませんが、今後は官民間問わず日頃から積極的な省エネ（節電）に努める必要があります。これからも出雲市省エネルギービジョン推進協議会では、省エネに関する情報提供等を行っていきます。


また、原子力に代わり CO2 排出量の多い火力発電が増加していることから、新（再生可能）エネルギーの導入を検討していくことが大切です。



基本目標 5 地球環境の目標 地球を考え 地域から実践するまち

本市では「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ」を策定し、市の事務事業から排出されるCO₂の削減に取り組んでいます。

<地球温暖化防止の取り組み>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
市の事務及び事業から発生するCO ₂ 排出量(t-CO ₂) ※〔 〕はCO ₂ の削減率	8,494	8,317 〔▲2.1%〕	9,471 〔+11.5%〕	—	7,901 〔▲7%〕
環境 ISO 認証取得事業所数	20	19	21	30	40
家庭版環境 ISO 登録世帯数	120	27	25	500	1,000
学校版エコライフチャレンジ しまね参加小中学校割合	0%	100% 〔52校〕	100% 〔52校〕 	50%	100%
風力発電施設の発電量 (kWh)《再掲》	2,750,000	2,102,546	1,445,469	172,750,000 〔市の95%の世帯〕	172,750,000 〔市の95%の世帯〕
新エネルギー導入市有施設数 《再掲》	3	4	5	10	30
3km未満の市職員の ノーマイカー通勤率《再掲》 ※〔 〕はCO ₂ の年間排出量 (kg-CO ₂)	57% 〔74,400〕	57% 〔47,810〕	50% 〔47,095〕	80% 〔34,800〕	80% 〔34,800〕

「学校版エコライフチャレンジしまね参加小中学校割合」が目標を達成している以外は、どの項目も前年度から横ばいもしくは悪化しています。

特に「市の事務事業から発生するCO₂排出量」は、基準年度（平成17年度）を初めて上回る結果となりました。（詳しくは、13ページをご覧ください）。

また、「風力発電施設の発電量」については、キララトゥーリマキ発電所が落雷等の影響により停止していたことから、前年度比31%の減少となりました。（なお、市内最大の「新出雲風力発電所」の発電量は公表されていないため、ここに含まれていません。）

「家庭版環境 ISO 登録世帯数」は横ばいで、市民へのPRの強化が必要です。「3km未満の市職員のノーマイカー通勤率」については悪化しており、目標達成に程遠い状況です。啓発をより一層強化し、市職員の意識改革を推し進めていく必要があります。

関連計画 出雲市地域省エネルギービジョン

平成 19 年度に策定した「出雲市地域省エネルギービジョン」では、ビジョンを確実に推進するため、年度ごとに、CO₂ の排出量や取り組み状況を点検・評価することとしています。以下に目標値や現状など、点検・評価内容を示します。

目標数値	エネルギー起源 CO ₂ 排出量を平成 18 年度(2006)比 約 20%削減 平成 2 年度(1990)と同じ水準に抑制（産業部門を除く）
------	---

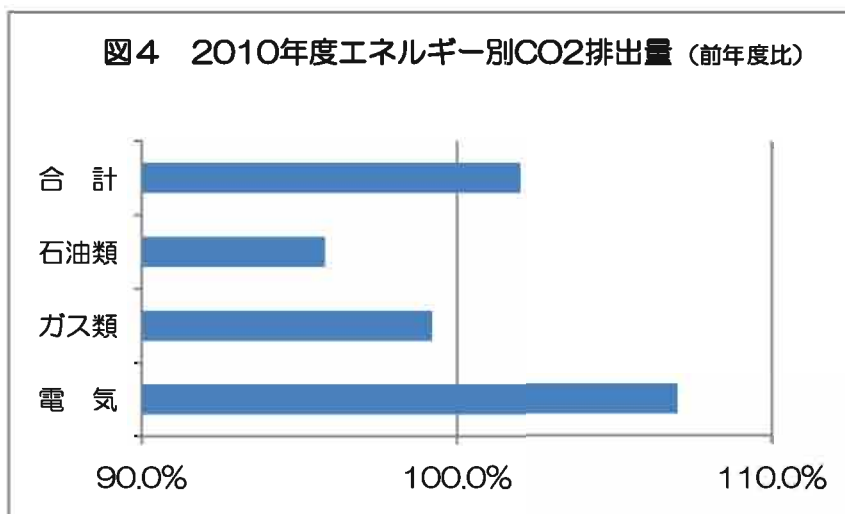
＜取り組みの現状と数値目標＞※省エネルギービジョンでは基準年をH18（2006）年度としています。

目標設定項目	H18 (2006) 基準年度値	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H28 (2016) 目標値
CO ₂ 排出量(t-CO ₂) 〔基準年度比削減率〕	1,020,354	956,278 〔▲6.3%〕	974,965 〔▲4.4%〕	約 20%削減
家庭部門(t-CO ₂)	206,704	195,070 〔▲5.6%〕	192,845 〔▲6.7%〕	30%削減
業務部門(t-CO ₂)	258,145	273,209 〔+5.8%〕	290,746 〔+12.6%〕	42%削減
産業部門(t-CO ₂)	284,828	229,297 〔▲19.5%〕	244,034 〔▲14.3%〕	—
運輸部門(t-CO ₂)	270,677	258,702 〔▲4.4%〕	247,341 〔▲8.6%〕	17%削減

上記の表をご覧になって分かるように H22 (2010) 年度は H21 (2009) 年度に比べ CO₂ の排出量が増えています。図 4 のとおり、前年度比で電気消費量のみが増加していることから、これの大きな原因は「夏の猛暑」と考えられます。

出雲市の H22 年夏の最高気温は、梅雨が明けた 7 月後半から連日 30 度を超え、8 月に入ると台風が通過した 12 日に 29.4 度に下がったものの、その後は全日 30 度を超え、そのうち 35 度を超える「猛暑日」が 9 日もあったことから、記録を見てもとても暑かったことがわかります。

全国的には朝昼を問わず熱中症患者が発生しているという報道もあったことから、夏冬ともに厳しい環境の中では、冷やしすぎず、暖めすぎないという生命人体に影響のない範囲で、省エネ（CO₂ の削減）を実施していくことが大切です。



関連計画 いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ

本市では平成 18 年度に出雲市役所地球温暖化対策実行計画「いずもエコオフィス・アクションプログラムⅡ」を策定し、市の事務事業から発生する CO₂ 排出量を平成 28 年度までに 7% 削減（目標排出量 7,890t-CO₂）することを目標に掲げ、温暖化対策に取り組んでいます。

CO₂ 排出状況と数値目標

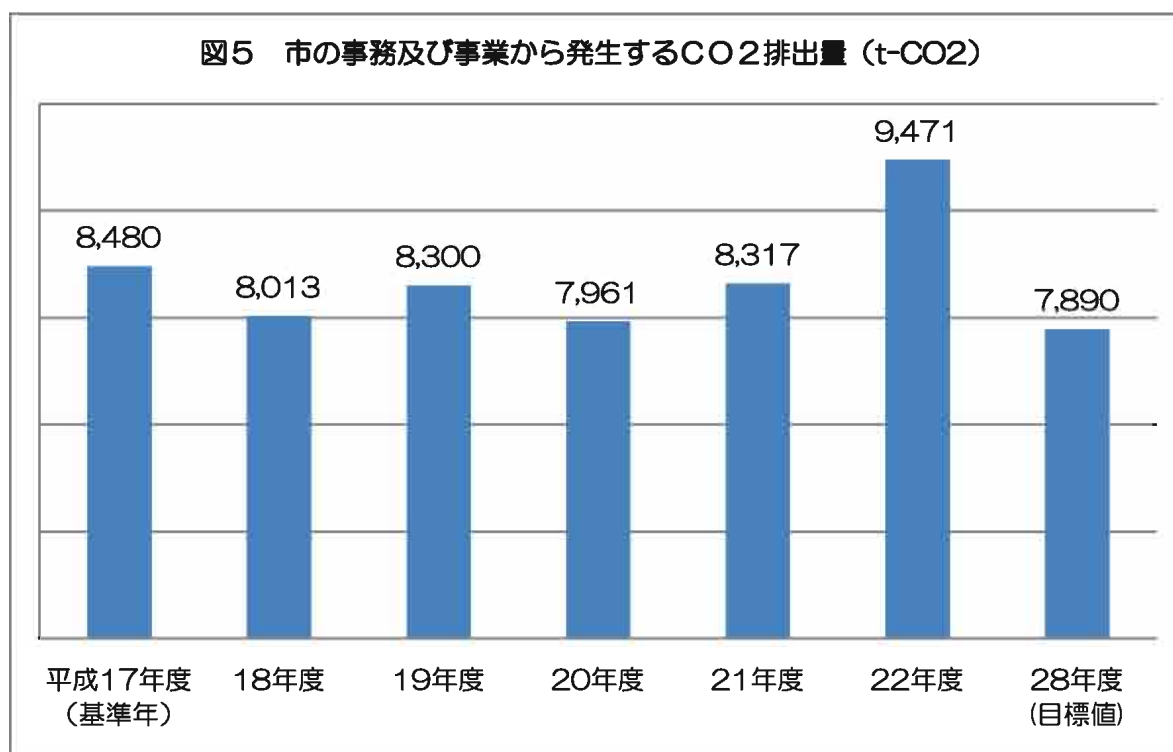
平成 22 年度は、図 5 のとおり、計画策定以降はじめて基準年度（平成 17 年度）を超える CO₂ 排出量となりました。

これは市役所本庁舎をはじめとする市有施設の規模の増大と平成 22 年夏の歴史的な猛暑により電力使用量が大きく伸びたことなどが原因と考えられます。

平成 23 年 10 月の斐川町との合併に伴い、現在、平成 22 年度を基準年とした目標値設定（改定）作業を行っており、平成 24 年度以降は新しい基準で評価していくことになります。

東日本大震災以後、エネルギー、特に電力需給や省エネ（節電）に関する考え方が大きく変わってきています。

市においても、時代に即した省エネを積極的に進めていく必要があります。



基本目標 6 環境学習や環境保全活動の目標

ともに学び行動する 環境意識が高いまち

学習や啓発をはじめとする情報の提供と共有は、環境に対する意識や興味をもってもらうためのきっかけとして、またそれらを深く理解するためにも大変重要なものです。

今後も、広報紙などによる環境に関する情報発信や各種イベントにおける啓発活動を行ってまいります。

<環境学習・環境保全活動の推進>

<環境情報の提供と共有>

目標設定項目	H17 (2005) 計画策定時	H21 (2009) 前年値	H22 (2010) 現状値	H23 (2011) 中間値	H28 (2016) 目標値
こどもエコクラブ登録団体数	8	10	9	20	30
環境新聞の発刊回数(年間)	2	6	3	4	6
くらしの中の環境フェア 入場者数	2,000	3,000	H21年度で 終了	4,000	8,000
21世紀出雲産業見本市 (産業フェア)入場者数	13,000	11,000	10,000	13,000	13,000

<参 考>

省エネ・3R 推進事業

出雲市省エネルギービジョン推進協議会は、しまね自然と環境財団からの助成金等を活用し、次のような地球温暖化防止を中心とした啓発・実践活動を行いました。

【普及啓発】

<協議会会報>

当協議会の活動(事業)の紹介、地域での省エネ・3R活動の紹介、その他環境全般に係る情報などを掲載し、出雲市の広報紙とともに各町内会に配布し町内回覧に供しました。

発行月：9月、12月、2月(3回)

<レジ袋削減啓発>

廃棄物削減の啓発活動の一環として「NO!レジ袋推進協議会」と連携をとり、「マイバッグキャンペーン」を開催し、レジ袋削減を呼びかけるとともに、意識調査のためのアンケート調査を行いました。

開催日：平成22年(2010)7月3日(土)

開催場所：市内各スーパーなど 計5箇所



＜エコ通勤促進啓発＞

出雲市駅開業 100 周年記念イベント内において、ポケットティッシュを配布しながら、エコ通勤の実施を呼びかけました。

実施日：平成 22 年 10 月 9 日
実施場所：出雲市駅アトネスいすも
縁引寄まつり会場



＜イベント啓発活動＞

下記のとおり行われたイベント内にて「省エネ・3R」に関する啓発とアンケート調査を行いました。

イベント名：出雲産業フェア 2010
日時：平成 22 年 11 月 6、7 日
内容：パネル展示、アンケート調査



【実践活動】

＜グリーンカーテン設置＞

市役所（本庁）1 階にグリーンカーテンを設置し、その効果を確認するとともに、会報・HP などで結果を公表しました。

設置日：平成 22 年 6 月 12 日
設置場所：出雲市役所 本庁舎 東側



レジ袋の無料配布中止の結果

条例に定める「特別事業者（※）」の平成 22 年度下半期の「マイバッグ平均持参率」と「レジ袋収益金の活用方法」は次のとおりでした。

事業者名	レジ袋無料配布中止の有無	マイバッグの平均持参率	レジ袋収益金の活用方法
イオンリテール(株) (イオン)	○	84.0%	出雲市環境保全連合会へ寄付
(株)イズミ (ゆめタウン、イズミ)	○	83.6%	出雲市環境保全連合会へ寄付
(協)出雲ショッピングセンター (パラオ)	(休止中)	—	
(株)ウシオ (グッティー)	○	83.5%	出雲市環境保全連合会へ寄付 中国 CGC みどりところの基金への寄付
(株)小田商店 (おだ)	○	91.3%	出雲市環境保全連合会へ寄付
いずも農業協同組合 (ラピタ)	○	89.8%	JA 女性部組織が行う環境活動への助成 マイバッグの無料配布
(協)大社ショッピングセンター (エル)	○	82.0%	環境団体等への寄付
(株)フーズマーケットホック (ホック)	○	85.7%	出雲市環境保全連合会へ寄付 廃トレー、牛乳パック、牛乳瓶の回収など
(株)マルマン (マルマン)	○	79.3%	トレー回収箱の整備
(株)丸合 (丸合)	×	40.5%	
(株)トライアルカンパニー (トライアル)	×	調査なし	

※ 特別事業者：出雲市内に 1,000 m²以上の店舗面積を有し、かつ、食品衛生法第 52 条第 1 項の許可を受けた小売事業者

<その他の取り組み事業者>

社会福祉法人親和会 ふたば (市役所売店)

(株)ハーティウォンツ (ウォンツ)

(有)藤増ストアー (藤増ストアー)

地球温暖化など環境問題を解決するためには、皆さん一人一人の理解と取組みが大切です。その一つとして、買い物にはマイバッグやマイバスケットなどを持参し、身近なことからごみ減量や地球温暖化対策に取り組んでいきましょう。